

令和 5 年度日本規格協会標準化貢献賞

[標準化貢献賞]

(敬称略)

氏 名・所 属・役 職	主 な 功 績
<p>新森 修一 鹿児島大学 理工学域理学系 理工学研究科 理学専攻 数理情報科学プログラム 教授</p>	<p>大阪大学 工学部 在職中より、当協会の基幹セミナーである「品質管理と標準化セミナー (QS セミナー) 関西教室」をはじめ、「実験計画法セミナー入門コース」など、約 30 年間に亘り多くの講義を担当いただいた。</p> <p>専門分野の数理統計の知見を生かし、初学者にとって難解な「統計的手法」の内容を目的・理論・計算方法・適用方法を系統立てて説明するとともに、入念に準備された講義資料/演習資料を用いた講義の進め方は、受講者からの評価も高く、指導講師の範となった。</p> <p>さらに、QS セミナーワーキンググループメンバーとして、長きにわたり、校閲、電子化の推進にご協力いただいたほか、教材編集・解析ツールの作成に尽力いただくなど、指導講師・事業運営の両面で関西地区 研修事業の発展に貢献された。鹿児島大学 理学部 教授に就任後も、引き続き QS セミナーや福岡地区の指導講師として「品質管理セミナー入門講座 (6 日目)」などの講義を担当されている。</p> <p>新型コロナウイルス感染が蔓延し、公開セミナーが相次ぎ中止となる最中、オンライン配信の講義を積極的に引き受け、福岡地区から配信する分かりやすい同氏の講義は全国の受講者から多くの賛辞を得るなど、統計的品質管理の普及と人材育成に多大な貢献をされている。</p>
<p>長谷部 光雄 のっぽ技研 代表</p>	<p>リコー在籍時から品質工学の普及を通じて当会に多大なる貢献をいただいている。</p> <p>具体的には、標準化と品質管理誌の連載 (2 回 : 2009 年 7 月～2010 年 3 月、2010 年 4 月～11 月)、4 冊の書籍 (「技術者の意地」、「続 技術者の意地」、「開発現場で役立つ品質工学の考え方」、「技術にも品質がある」) の上梓、品質工学セミナーの講師 (エキスパートコース、ロバスト設計コース等)、企業内講演会や品質月間などにおける講演などがある。</p> <p>難解とされる品質工学の内容を分かり易く教えることにより好評を多く得、そこから更なる講演等の依頼をいただくなど、当会の知名度拡大へ多大な貢献をされている。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>畠山 利孝</p>	<p>長年にわたり、日本規格協会が発行する英訳 JIS の翻訳者として、当協会が顧客ニーズや市場の注目度、関心度が高い英訳 JIS を安定して年間約 150 件、時宜を得て発行することに非常に大きく貢献している。</p> <p>元自動車技術会に所属されていた経験を活かし、ニーズの高い JIS について主に D 部門（自動車）や B 部門（一般機械）を中心に、さらにそれ以外の幅広い分野についても翻訳を引き受け、英訳 JIS 業務に多大な貢献をいただいている。</p> <p>また、JIS の翻訳商品を国内外に広く普及することを通じて、JIS の認知度向上にも寄与している。</p>
<p>松村 弥寿治 有限会社松村コンサルティング MIC</p>	<p>1999 年より QMS の主任審査員として長きに亘り活躍し、組織の QMS の取り組み及び認証登録制度の社会的な信頼性を向上させた。</p> <p>ISO9001: 2015 改訂にあたっては、JSA 登録組織に対する規格説明会の講師を担当し、実際の審査経験を紹介した資料を受審組織と共同作成した。この資料と説明により、多くの組織の 2015 年版への移行がスムーズに行われることに貢献した。審査員教育では、産業分野別の専門研修の講師を複数回担当し、製造業を審査する際のポイントのみならず、受審組織や審査チーム内のコミュニケーションの重要性を説き、若手審査員に対し“JSA 審査のあるべき姿”を示した。</p> <p>また、COVID-19 の影響で現地審査が難しい時期にリモート審査を経験したことを踏まえ、事前準備、部門審査、現場審査など場面別の注意点や解決策など多数の情報を整理して審査員へフィードバックすることで、他の審査員にとって有益な教育機会を提供した。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>山田 茂 鳥取大学 名誉教授／特任教授 工学博士</p>	<p>鳥取大学 工学部 社会開発システム工学科 情報システム研究室において、ソフトウェア信頼性工学の考え方の下に情報システムの品質・信頼性に関する問題を取り扱い、コンピュータシステムのハード／ソフトの両面から、システム分析と評価に関する研究を行っている。</p> <p>研究対象として</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ソフトウェア品質・信頼性の計測・評価モデルの構築と評価 ②ソフトウェアマネジメントツールの作成 ③プロジェクトマネジメントにおける品質マネジメント手法の開発 ④ハードウェア／ソフトウェアの可用性評価 ⑤総合的品質管理（TQM）における統計的品質管理手法の開発 <p>に取り組み、その研究成果が評価され、日本オペレーションズ・リサーチ学会中国・四国支部長、プロジェクトマネジメント学会中国支部長、デミング賞委員会委員、デミング賞審査委員会委員、韓国信頼性学会名誉会員、インド国 Amity University 名誉教授などを歴任され、その知見を基に、長年にわたり中国地区における企業の品質管理や現場の管理・改善手法等の普及並びにそのレベル向上に多大な貢献をされた。</p> <p>また、2004 年度からは弊社研修事業において日本規格協会・広島支部主催の「品質管理セミナー／入門コース」の講師を務め、標準化と品質管理の普及とその人材育成に多大な貢献をされている。</p>
<p>山本 隆司 東京農工大学</p>	<p>2007 年より 15 年間の長きにわたり、標準化と品質管理全国大会実行委員会に委員としてご参画いただいた。標準化活動に関する幅広い知識、豊富なお経験、鋭い洞察力、温厚な性格や強い責任感のもと、同大会のテーマ検討や運営関連の改善提案、闊達な議論をリードしていただくとともに、多様な講演テーマのご提案、講演候補者のご推薦や JSA への橋渡しに至るまでご尽力いただき、同大会のイベント価値向上に多大な貢献をされた。</p> <p>また、2009 年 4 月～2013 年 3 月、2015 年 6 月～2022 年 3 月において、規格委員会の委員をお務めになり、特定標準化機関（CSB）として JSA が自ら作成する JIS 原案等に関する調査・審議を推進いただき、JSA の安定した JIS 原案作成に多大な貢献をされた。</p>

[標準化貢献特別賞]

(敬称略)

団体・企業名	主な功績
岩手県一関市	<p>品質管理検定（QC 検定）は、全国各地に会場を設けて実施しているが、近隣に一般試験会場がない、団体 B 申込（申込者が試験会場を設置する方式）の履行人数条件に満たない組織／個人の方々のため、一関市では、団体 B として、自治体（一関市）を中心に研究機関（岩手県南技術研究センター）とともに運営主体となり、市内（一関工業高等専門学校など）で受検可能にする取組みを全国で初めて平成 23 年度（第 12 回 QC 検定）に行った。現在まで総勢 5,000 名を超える受検申込（1 級～4 級）がなされとともに、初の産官学連携型団体受検方式の事例公開などにより、同方式への受検拡大に一翼を担っている。</p> <p>また、市内のみならず、岩手県南・宮城県北の企業の方々や市内の工業高校の生徒、高専の学生など、受検者の負担軽減が図られるとともに、取得支援講座の開講と合わせ、人材育成と意欲向上を担うなど、産官学連携のモデル事業とし、人づくりによるものづくり技術の向上と、地域企業の活性化と地域連携による企業力の向上、さらなる産業の振興を図ることで、QC 検定、品質管理等の普及・啓発に多大な貢献をされている。</p>

[標準化奨励賞]

(敬称略)

氏名・所属・役職	主な功績
安達 宏之 有限会社洛思社	<p>2011 年より EMS の主任審査員として長きに亘り活躍し、組織の EMS の取り組み及び認証登録制度の社会的な信頼性を向上させた。EMS の審査技術検討会では複数年委員として審査要領の開発に努め、ISO14001:2015 移行対応や環境法規制等に関する審査の考え方や最新情報の収集、教育に貢献した。特に環境法規制等の分野においては、審査技術検討会のみならず審査員教育の場でも継続的に最新情報を発信しており、社会的に SDGs やカーボンニュートラルなど環境に関する注目度が高まり、フロン排出抑制法の改正や、プラスチック資源循環促進法の施行などの動きがある中、JSA で活動する審査員の力量向上に大いに貢献している。</p> <p>また、EMS の判定委員会では委員として信頼ある認証の決定を行うなど、JSA グループの認証事業の信頼性確保に貢献している。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>内館 道正 岩手大学 理工学部</p>	<p>ISO/TC213（製品の寸法・形状の仕様及び評価）における国際標準化活動のうち、表面性状に関する作業グループであるWG15 [製品の幾何学特性（GPS）の測得及びフィルタ処理技術]及びWG16（三次元及び側面の粗さ）等において、2014年からエキスパートとして活躍いただいている。</p> <p>また、国際舞台のみならず、ISO/TC213 グループ C 国内委員会の幹事として国内においても中核的な役割を担っており、これらのWGで開発される国際規格のJIS化にもご尽力され、昨年度は、ISO/TC213 グループ C 関係 JIS 素案作成委員会/JIS 素案作成準備委員会において、JIS B 0681-1:2023（製品の幾何特性仕様（GPS）—表面性状：三次元—第1部：表面性状の図示方法）の開発に貢献された。</p> <p>また、ISO 21920 [製品の幾何特性仕様（GPS）—表面性状：輪郭曲線]シリーズの対訳版の作成にも中核的な役割を果たされた。今後も、ISO 21920 シリーズ等、複数のJIS化作業を予定しており、規格の開発・普及の両面で益々の活躍が期待される。</p>
<p>中村 泰拓 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 福島ロボットテストフィールド 技術部 技術課</p>	<p>ドローンサービス品質標準に関するJIS開発事務局主担当として、JIS原案の作成、利害関係者の取りまとめに尽力し、ドローン産業界初となるサービス品質規格の開発を推進した。ドローンのレベル4飛行が解禁されたことは、ドローンの活用範囲が大きく広がる契機となる。ドローンを利用したサービスは様々な分野で行われており（例として、輸送、アセット点検、農薬散布など）、様々な利害関係者がかかわる産業となっているが、品質の定めがないまま、サービスが提供されている現状があった。</p> <p>公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構では、これらサービス提供において分野共通要素の標準化及びJIS開発を提案し、省庁、業界団体、ドローンサービス提供企業、認証機関他、数多くの利害関係者の意見を集約し、粘り強い交渉・調整、実証実験のもと、ドローンサービス提供組織に対するプロセス要求事項として認証基準としても活用可能なサービス品質基準を作り上げ、我が国の政策及び産業発展を支える基盤づくりに貢献された。同JISは、新しい技術、産業に関わるだけでなく、大変幅広い応用をカバーする基本的なものである。将来は、応用範囲を限定したJISやガイドラインなどを作成する場合の基礎となりうる親規格であり、具体的な応用分野への派生によって、産業界における標準化への貢献が期待される。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>馬淵 恭子 Hagi-tech 代表取締役</p>	<p>2016年7月にJRCAの研修コース承認審査業務における研修コース承認審査員に就任し、主に食品安全マネジメントシステム(FSMS)審査員研修コースの審査業務を支えてきた。JRCAの研修コース承認審査では、研修コースの立会を実施し、コースの内容、運営方法などを審査しており、この審査を行うためには、該当するマネジメントシステムに対する深い知見と審査経験が求められる。</p> <p>研修コース承認審査員は、JRCAの審査員以上の資格を有する必要がある、特にFSMS審査員研修コースにおいては、これらの力量要件を満たす承認審査員が限られていることから、同氏には研修コース承認審査員就任当初から、多くの審査を対応いただいた。その後、ISO22000:2018発行に伴うFSMS審査員研修コースの移行や、HACCPリーダー制度立ち上げに伴う新規研修コース承認など、FSMS関連制度での様々な取り組みにおいても、大きく貢献され、現在も研修コース承認審査にて適切な審査を行っており、今後の更なる活躍が期待される。</p>